

オホーツクの風

平成28年8月24日(水) 0017号

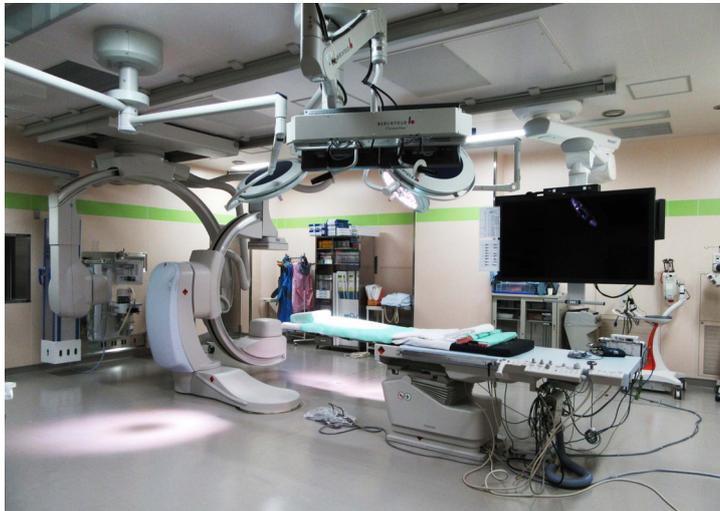
発行所
北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局
北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

肝臓・心臓・呼吸器疾患の高度専門医療を担う

北海道立新北見病院を見学

平成28年8月18日午後、北見赤十字病院の事務部のスタッフと当会の会員総勢12名が北海道立新北見病院の1階ロビーに集まりました。

北海道立新北見病院の角事務長、福田副院長兼総看護師長



ハイブリッド手術室内部 (写真提供=道立新北見病院)

そして数人のスタッフの迎えを受け、用意の病院パンフレットを戴き、見学が始まりました。外来診療部の診察室、CT室を見学して検体検査室に案内され、技師の方から最新の検査機器の説明を受けました。

1階からエレベータに乗り、2階で止まり、反対側のドアが開き、2階病棟のスタッフステーションの前に降りました。



手術部門の前室前で

連絡通路、道立側の出入り口



連絡通路を北見日赤に向かつて歩む



連絡通路を北見日赤に向かつて歩む

EVで3階に行き、集中治療室を見て、手術部の前の廊下へ、手術室は使用中で前室の出入り口の前で説明を受けました。残念ながら、ハイブリッド手術室は見学出来ず、事務長がその写真を示して説明をしてくださいました。

廊下を直進すると北見日赤との連絡通路の道立側に案内され、事務長が開閉部を開く操作を行い、連絡通路は開かれ、また日赤側も同時に開かれました。通路は少し勾配がありましたが、それ

今後の取り組み

見学の後、北見日赤の会議室で例会を

開き、今後、どのような取り組みをすべきか会員の皆さんと話し合いました。見学の説明から、病院を少しでも知って欲しいという、スタッフの熱意が伝わってきました。また最新の医療機器の稼働も知りました。

北見日赤で臨床研修に励んでいた大川先生が今年4月から道立新北見の医師として勤務していただきます。医局の充実も進んでいます。

道立新北見と連絡通路で繋がった北見日赤には新たな機能が加わりました。

道立新北見病院の医師、看護師そして医療スタッフに感謝の気持ちを伝え、病院を知ることが北見日赤の運営力を高め、そのことが北見の医療資源を豊かにし、私たちの誇りに繋がると考えます。焦らず、一步一步進むことを全員で確認しました。

北見赤十字病院 臨床研修医の先生方と交流

第3回 北見での思い出づくりの集い



平成28年7月31日(日)、野付牛公園・イチイの森で「第3回北見での思い出づくりの集い」を開催。

1週間前の天気予報は「晴れ」でしたが、3日ほど前の予報から「晴れ時々小雨」に変わりました。雨に当たることを考えて、会場は夕陽ヶ丘通りの野付牛大橋の下に設置することになりました。

当会役員は夏の日差しが強い午前10時に現場集合。受付事務、買い物のチェック、炭焼きコンロの配置など、大忙しです。

北見赤十字病院の臨床研修医・前年参加の研修医を含めて16名、病院のスタッフ・21名と当会の会員・17名、総勢・54名が午前11時30分、公園に集いました。

道立新北見病院の大川医師が参加

昨年の集いにも参



加を戴いた、大川さん(当時、北見日赤の臨床研修医)は今年、4月から道立北見病院で医師として勤務しています。明日・8月1日、日赤の隣接地で開業を控え、多忙の所を参加してくださいました。

定刻にセレモニーが始まり。臨床研修医・病院スタッフ・当会スタッフの順に全員自己紹介をしました。

逢坂代表が「歓迎のことば」、開院前のお忙しい所を参加



戴いた道立北見病院の大川医師が「集いに参加して」、田辺副部長(北見赤十字病院・事務部)が「集いへのことば」をそれぞれ述べました。セレモニーの終わりに、イチイの森のモニュメントの前で記念撮影です。

オホーツク ビールで乾杯

橋の下の特設会場には、炭火コンロと段ボールで作ったテーブルのグループが9カ所作られそれぞれに市内の中学校の名前(例えば「南」



は「南中学校」のことです)を表示しました。

記念撮影を終えた皆さんは炭に火が入ったコンロの周りにそれぞれが着席。ビールサーバーからの冷たいオホーツクビールでそれぞれの喉を潤し、ほっとした所で、矢田副部長(北見赤十字病院事務部)の音頭で乾杯です。

料理は味覚園栄町の焼き肉セットに当会が買いそろえたイカ、ししゃも、天ぷら、おにぎりが各テーブルにセットされ、焼き肉の煙と香りがお天気の会場に漂い、皆さん、食欲旺盛です。

オホーツクビールと焼き肉料理で楽しい交流が盛り上がった所で、今日、参加戴いた研修医の一人お一人から今の思いなどの発表です。それぞれがビールもまわり、ユーモアを交えてのコメントで



す。ビンゴゲームの間です。会で買いそろえた品をラッピングした景品と森實副代表が勤務する「北見トヨペット(株)」から提供戴いた景品がテーブルに並んでいます。

森實理事がその進行役となり、ランダムに並んだ番号札の番号を読み上げ、段ボールに貼り付けていきます。速いスピードでビンゴの声が掛かります。最後のビンゴになっても景品が少し残り、更に

病院の皆さんが優先で抽選を行い、用意した景品の全ては皆さんに行き渡りました。

先日の買い物で、パインとキュウリを求め、阿久津事務局長が自宅でステッキに調理し、保冷ボックスに詰めて持ってきてくれました。冷えてサッパリしたステッキは焼き肉の後の美味しい一品でした。

どのテーブルも食べるものがなく、完食です。オホーツクビールはタンク2個を用意したのですがサーバーは空で、皆さん、十分に召し上がったようです。

お開きは「パン」

表監査役のお礼の挨拶の後、「一丁メ」でしめることになりました。ご参加の皆さんは立ち上がり、「皆さん、お手をはいしゃく」と表監査役が発声すると、会場の全員が「パン」

と1回手をたたき、無事にお開きになりました。

途中、空の彼方では雷がなっていました。幸いにも、お天気が晴れて、雨にも当たらず、事故もなくすばらしい一日でした。

後片付けやゴミの整理など、病院の皆さんも手伝って戴き全てが午後3時には終わることが出来ました。

協賛各社にお礼

焼き肉料理は(株)坂口精肉店(代表取



締役社長・坂口政義が格安で供給に依じて戴き、またオホーツクビールはオホーツクビール(株)(代表取締役社長・五十嵐力)が同様に格安で供給して戴きました。厚くお礼を申し上げます。また現場設営に阿部味覚園栄町店長やそのスタッフ、大石オホーツクビール支配人や小原さんにお世話になりました。協賛各社の今後のご繁栄を願っています。有り難うございました。

活動の発表と懇談

浦河の医療機関を守る会の研修会で

今年の春、浦河の医療機関 会の勉強にもなるのでお掛けを守る会の事務局の小野浦河 することになり、その後、何町保健福祉課長からメールが 度かメールを交換して、準備届き。当会の活動を浦河で発 を進め、いよいよ浦河への出表して欲しいとのこと。 発です。

平成28年8月4 日朝8時、夏の暑い 日差しのおホーツク から太平洋に向かっ て逢坂代表・谷川副 代表・阿久津事務局 長が出発しました。

置戸、芽登、帯広 を経由して、忠類の 道の駅で昼食をと り、再び国道236 号を走行、天馬街道 に差しかり野塚ト ンネル(全長423 2M)を抜け平野部 に入った。

広い牧場に馬の親 子がのんびりと草を 食んでいます。幾つ かの牧場を通過する と太平洋の香りがし てきました。街の中 心にある浦河町総合 文化会館はもうすぐ です。

銀行やホテルが建 ち並び、図書館を併 設した研修会場に到 着したのは午後1時 45分頃でした。

事務局の小野浦河 町保健福祉課長、小 林同課参事、早坂浦 河町社会福祉協議会 事務局長が待機して いてくださり、早速、 ご挨拶と名刺交換、 事前打ち合わせ、写 真の展示、そして「オ ホーツクの風」のバ ックナンバーと報道 資料のクリヤーブツ クを贈呈。

午後3時30分の 開会を待つばかりで す。 浦河の医療を守る 会・浦河町保健福祉 課・浦河町保健推進 員・浦河民生児童委



員協議会・薬剤師会・ 浦河赤十字病院いち の会など30数名

の皆さんが集まり、 研修会は始まりまし た。

浦河の医療機関を 守る会の武田副会長 の挨拶があり、引き 続き逢坂代表がご参 集戴いた皆さんへの お礼やお招きを戴い たお礼、そして発表 はパワーポイントで 行う旨を説明しまし た。

谷川代表の発表

北見赤十字病院は 平成20年1月、内 科医6人全員が退職 の意向を固め、4月 から内科の診療が一 時休止する事態に見 まわれました。地域 医療が崩壊するので はないかと市民は不 安を募らせました。

その直後、北見日 赤に入院しました た、内科の待合室は 真っ暗で患者はだれ もいませんでした。

地域の基幹病院が 大変なことになった と思いました。そこ で病院の大切さや地 域医療のことなどを 考え、市民に出来る 支援活動をしようと 思い、平成21年1 1月、会を立ち上げ ました。

立ち上げた当時、 多くの人に賛同して もらえると思ってい ましたが、現実は大 違っていました。こ れ、病院に不満を持 っている人たちの 批判の声などがあ り、いろいろな考え

があることを知りま した。

まずは病院のこと を知ろうと病院の見 学などを行い、そこ で働く医師、看護師 そして医療スタッフ に感謝の気持ちを伝 えることから始めま した。

阿久津 事務局長の発表

「オホーツクの風」 の発行▼日赤との情 報の共有、会員相互 の交流、市民や患者 の立場から感謝と応 援や提言などを掲載 するのが目的です。

当初は皆さんから 何のための会なのか と、よく質問されま したが、上手く答え ることが出来ません でした。そんな調子 ですから、お仲間も 誘わずにいました。

自分たちに何が出 来るのか、自分自身、 何一つわかっていな かったのです。でも、 私のの中では、さい はてと言われる日本の 北の果て、オホーツ ク圏で唯一3次医療

が受けられる、この 病院を大切にしまし なければいけないこと を市民の皆さんにも知 っただけ、その方 法の一つが機関誌の 発行でした。

院内見学、ウイン ターミーティング 「上野看護部長を囲 んで」、「きたみ医 療サミット ウイン ター」PETセンター はオホーツクの宝 物、PETセンター の見学、新病院見学 会、「がんの最前線・ 緩和ケアとは」と詳 しい説明が続く。

昨年10月、第5 1回日本赤十字社医 学会総会▼県庁所在 地以外の市での開催 は北見が初めてで、 市内の4施設、13 会場が開かれました。 北見では経験し たことがない大きな プロジェクトで、1 700名の皆さんが 北見を訪れました。 吉田院長のリーダ ーシップがあったか らこそその開催と思 っています。

私たち、北見赤十字病院の明日を考えた支援する会はポスター発表の行われた市立体育センターの武道館に設置された休憩コーナーやドリンクコーナーの運営を支援しました。

またその会場の一角の大きな壁面パネルを利用して最新の14号までの「オホーツクの風」を貼り付けたパネル。そして病院の解体前の旧館、新築の新館、ぼんち祭りの舞踊パレードに参加した吉田院長はじめ皆さんの群舞などの大判写真を壁面ボードに展示しました。

「北見での思い出づくりの集い」▼この行事の目的は、北見赤十字病院で臨床研修に励む先生方に市民として感謝の気持ちを伝え、北見の病院で医師として帰って来てくださることに願いを込めて、焼き肉料理とオホ

ツクビールで青空の下で和気あいあい楽しむことです。

逢坂代表の発表

11月6日に行われる「外科手術・整形外科 体験 ブラック・ジャックセミナー」について▼本誌6面の記事と内容が重複しますので、本欄では割愛します。前半の発表が終わり、私たちのテーブルを対話が出来るように並べ換え、後半は懇談です。

浦河の皆さんとの懇談

懇談の呼び水として、研修医の焼き肉の運営の話から始まった。当会は小さな市民グループなので、少ない予算でやりくりをしています。焼き肉やビールを無償や格安で提供して貰える協賛各社を探すことです。会員の人脈を総動員し、お陰様で協賛各社の協力が得られ、今年で3回目を迎え



ました。

機関誌に北見日報の決算報告が載っているがどのようにして会計情報を得たのか会場からの質問。決算情報は公開されていません、その情報で記事を書いたのですが、やはり、このような記事を載せることが出来たのは病院との信頼関係が出来ていたのであります。私たちが、先程の発表にあつたように、会の発足当時はどんなことをやっている会ですかと、聴

かれても返事をする事が出来なかつた。病院を知り、そのひたむきな医療活動に感謝をすることから信頼関係が生まれましたと考えています。

現在は自信を持って、私たちは北見日赤の応援団であり、広報部門ですと、答えることが出来ます。やはり病院との信頼関係が出来たからと思っています。

小野保健福祉課長から守る会の発足からの経過を発表。当会の発足当時と同じように何をやってたよいか、さ迷っているように感じました。

時間も迫まり、代表が今回の研修は当会との交流の始まりで、今後、お互いの研鑽のスタートにしたいと参加戴いた浦河の皆さんへのお礼とお招きを戴いたお礼を述べ、前半の発表と懇談の60分を閉めた。

海が見える病棟

浦河赤十字病院を訪問

翌朝、8時50分、浦河の東町に立地する浦河赤十字病院のロビーで北見で会の担当でお世話になった佐藤主事と再会、久しく挨拶を交しました。

早速、事務部に案内され、部の皆さんが一斉に席で立ち上がり、礼儀正しく、ほほえみで迎えてくれました。見知らぬ土地での出会いにうれしくなりました。



2016/ 8/ 5

北見の事務部から事前に連絡が入って内され、部の皆さんが一斉に席で立ち上がり、礼儀正しく、ほほえみで迎えてくれました。見知らぬ土地での出会いにうれしくなりました。

いて、すぐに、院長応接室に通された。朝の診療が忙しいにも関わらず、武岡院長にお目にかかることが出来ました。

持参した「オホーツクの風」のバックナンパーを手渡し、昨日使用した大判の写真を応接セットの横に展示させて戴き、昨日の研修会の様子を報告し、また大判の写真を示しながら、北見での活動を報告しました。

面談で武岡院長は医師不足の中、限られた医療資源で、職員は24時間懸命に使命を果たしてくれているが、なかなか、地域で今少し解って貰えないのがと静かに話されていたのが印象的でした。

面談の後、佐藤主事が7階の太平洋が見える病棟を案内してくれました。ゆっくり見学をしたかったのですが時間がなく、浦河日赤病院を後にしました。

弱さを絆に

浦河べてるの家を訪ねて

三十年前に、過疎化の進む浦河町で、精神障がいを抱えた人たちが「町のため

けるの家」に通っている方もいるのです。

社づくり等など、べてるの理念をお聞きしました。

か？」と考えたところからできたのが「べてるの家」と、メンバースタッフの

八月五日、朝九時五十分に訪問した時は毎朝の掃除の時間でした。積極的に話かけてきて、仕事内

私たちの横のテーブルでは、カフェでお仕事される方たちが「三度の飯よりミーティング」と言われ、自分を語り、仲間の話を聞き、語り合い支え合う、そんなミーティングを一月に百回以上開くそうです。

登録者百名、スタッフ八十名、グループホームが八棟あり六十二名が住んでいる。また自宅から「べ

容を教えて下さった。その後「カフェぶらぶら」に移動、秋山さんから、偏見差別大歓迎、利益のないところを大切に、公使混同大歓迎、手を動かすより口を動かす、弱さの情報公開、昆布も売ります、病気もうります、安心してさばれる会

市内の中学生に最新の医療に触れる機会を提供し。何よりも尊い「人の命」を救う医師の仕事に触れてもらい、一人でも多くの中学生が、将来の日本の医療を支える医師を志すきっかけになることを願って「外科手術整形外科 体験 ブラック・ジャック セミナー」を昨年秋から水面下で進めてきました。

順調だと。人は突然の別れや病気など、辛く悲しいことがある。それらの思いを耐えすぎると、ストレスになる。私は帯状疱疹と

か眩暈という形であらわれた。それは誰にでも言えることだ、大切な生き方を教わった気がします。(阿久津俊子記)

平成28年7月13日、北見市教育委員会が主管する「北見市小中学校校長会」で、本プロジェクトを説明して、中学生の参加募集を御願いしました。

北見赤十字病院は昭和10年、大日本赤十字社北海道支部野付牛療院として開院。今年で80周年を迎えます。病院の将来の医師確保の一助になればと取り組んでいます。

本セミナーは、手塚治氏が描いたキャラクター「ブラック・ジャック」が無免許であることや、法外な報酬を要求する点に賛同するものでなく、天才的な外科手術を身につけ、維持し続けるという医療に対するひたむきな姿勢や、常に「医師の仕事とは何か」、「命の尊さとは何か」、「お金よりも大事なものは何か」を問う姿勢に共感したものであります。



外科手術 超音波メス体験
マネキンにお肉を置いて超音波メスで切除する

ブラック・ジャック セミナー

中学生に医師へのアプローチ

北見赤十字病院の賛同が得られ、手術室の見学、会場の提供

供、医師や看護師として医療スタッフがボランティアで参加して戴くことも決まりました。

手塚治氏が描いたキャラクター「ブラック・ジャック」が無免許であることや、法外な報酬を要求する点に賛同するものでなく、天才的な外科手術を身につけ、維持し続けるという医療に対するひたむきな姿勢や、常に「医師の仕事とは何か」、「命の尊さとは何か」、「お金よりも大事なものは何か」を問う姿勢に共感したものであります。

Johnson & Johnson
JOHNSON & JOHNSON K.K.
MEDICAL COMPANY

北見赤十字病院

ブラックジャック

セミナー



2016年
11月6日(日)
13:00~17:00

©Tezuka Productions

会場 北見赤十字病院
多目的ホール「ミント」(北館1F)

対象 中学生

共催 北見赤十字病院・北見赤十字病院の明日を考え支援する会
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

後援 北見市・北見市教育委員会

受講内容

- 手術縫合体験
- 自動吻合器・縫合器体験
- 最新医療機器体験(超音波メス)
- 整形外科体験
- 内視鏡トレーニング体験
- 手術室体験ツアー

お問い合わせ先

北見赤十字病院の明日を考え支援する会
事務局 阿久津
〒090-0067 北見市緑ヶ丘1丁目10-16
TEL/FAX: 0157-61-0684

注) 本セミナーは、手塚治虫氏が描いたキャラクター「ブラック・ジャック」が無免許であることや、法外な報酬を要求する点について賛同するものではなく、天才的な外科手術の腕前を身につけ、維持し続けるという医療に対するひたむきな姿勢や、常に「医師の仕事とは何か」、「生命の尊さとは何か」、「お金より大事なものは何か」を問う姿勢に共感してのものです。

感動!! 「風に立つライオン」 映画を鑑賞

(下)
会員 荒田 悠

「ガンバレー」「ガンバレー」は自分自身に言っているのだと航一郎は和歌子に向かつて答えた。彼女の目に涙が浮かんだ。

2カ月と言う約束で派遣された航一郎はアット言う間に帰る日が来た。子どもたちはトラックが見えなくなるまで見送るが、その中にはンドウングの姿はなく、その後彼は一層かたくなに心を閉ざすようになった。

それから2カ月後、危険なサバクを航一郎一人がトラックを運転してやってきた。

あまりの無謀さに院長は怒るが、うれしさがあふれた。子どもたちは大喜びで航一郎にぶら下がる。一人一人の子どもとハグし、フト遠



出典: [HTTP://KAZE-LION.COM/ABOUT/](http://KAZE-LION.COM/ABOUT/)

くを見ると、ンドウングの姿があった。航一郎はンドウングに近寄ると、彼は足を引きずって逃げ出した。彼を追い掛けて彼を抱きしめるとンドウングは声をひそめて泣き出し、だんだん大きな声で泣き出した。そして突然はき出すように、「僕はお医者になれますか？」

「僕は……。本
医者になりたい? : 「勿論なれるよ」
航一郎が彼を包み込むように肩を抱いて答えた。たんに「いい加減な慰めは言わないで……」
僕は9人の命を奪ったのだ!。僕は銃で9人撃った。人殺しだ!」和歌子はそこにしゃがみ込んで声をあげて泣き出した。

「僕は……。本
当に医者になれますか?」「おめいよ。おめいが望むなら、なれるに決まってるんだ。おめいが9人を死なせた。それなら……。おめいは、これから、おめいの一生をかけて10人の命を救わなくてはならない」と航一郎が言い終わると、ンドウングの驚いたような、嬉しそうな顔は、みるみる涙がほほを流れた。それを見た航一郎は満面に笑みをたたえて、「分かるだろう?……。いいか

い。未来はそういうためにあるんだよ」とンドウングは大声を出して泣き始めた。航一郎は彼を強く抱きしめた。私は感動で一緒に涙が流れた。航一郎は危険な地域に医療のため、イヤがるトラックの運転者に無理やり願って行く途中ゲリラの狙撃にあって死すと日本の恋人に電話が入る。彼女は父親のあとをついで、南の小さな島の診療所の医師として活躍していた。

あの心を閉じた少年が立派な医師になって東日本大震災にボランティア医師としてやってきたのだ。東北の地で、今は亡き、航一郎の似顔絵に、ンドウング医師は弟の「ミケランジェロ」ですと呼びかけた。死をもおそれず勇敢にそして無謀に演技する男の優しい笑



出典: [HTTP://KAZE-LION.COM/ABOUT/](http://KAZE-LION.COM/ABOUT/)

も癒やししてくれた。久しぶりに見た感動の映画であった。最後にオーケストラによる「風に立つライオン」の曲が流れていた。とても良かったねー。
(完)

編集後記

浦河赤十字病院は日高医療圏の地域センター病院です。救急は1次・2次救急医療を受け持ち、急性期医療や多くの診療科を持ち、看護学校の運営や地域の保健、福祉サービスなどを提供しています。

医師不足が顕在化していて、夜勤明け後、すぐに日常の診療につくことも少なくない。また救急もコンビニ受診が少なくないとも言っています。

医療の供給側とそれを受ける地域社会がお互いに理解を深めなければと感じました。

浦河への旅は日高医療圏の地域医療を学ぶ、またとない機会でした。

「浦河の医療機関を守る会」のますますの発展を願っています。
(逢坂)